

課税口座から NISA 口座、投信乗り換え時の損益分岐点

2024 年からの新 NISA では、非課税で投資できる限度額が大幅に拡充されました。資金に余裕がある場合は、新規の資金で投資すればよいわけですが、これまで課税口座中心で運用してきていて、これ以上投資金額を増やしたくない、あるいは増やせない人もいると思われます。

この場合、課税口座で運用を継続したほうがいいのか、現在保有中の商品を売却し、その資金を NISA 口座で再投資したほうがいいのか、という疑問・悩みが生じます。

結論から言えば、評価益・評価損の有無、同一商品に乗り換えるのか、他商品に乗り換えるのか、購入時手数料の水準等、ケースによって判断は変わってきます。

現時点では、多くは評価益が出ていると思われるので、課税口座で評価益がある株式投信を保有している下記のケースについて、NISA 口座に乗り換える際の損益分岐点の考え方について見ていきます。

(ケース)

70 万円 (購入時の手数料を含む) で買い付けた株式投信が時価 100 万円まで値上がりしている。今後も期待が持てるので保有を継続したい。このまま、課税口座で継続したほうがよいか。いったん売却し、NISA 口座で同じ商品を買直したほうがよいか。

※以下の説明文中の収益率は、年換算したもの (年率) ではありません。また、換金時に信託財産留保額はかからないものとしています。

●損益分岐点の計算の仕方

時価 100 万円で売却した場合、30 万円の譲渡益に対して 20.315% の税金 (=6 万 945 円) がかかるので、再投資に回せる金額は 93 万 9055 円 (=100 万円 - 税金 6 万 945 円) となり、これを NISA 口座における投資金額とします。

① 購入時手数料がかからない場合

同一商品に乗り換えるので、いずれの口座も今後の収益率は同じです。

課税口座で運用を続ける限り、収益部分には 20.315% の税金がかかるので、手取りにすると 79.685% の増加ということになります。一方、NISA 口座で投資した 93 万 9055 円を超える収益部分には税金がかからないので、100% 受け取れます。

したがって、評価益がある場合で、NISA 口座で同一商品に購入時手数料なしで乗り換えられる場合は、NISA 口座への乗り換えのほうが有利になります。

(例) 今後の収益率が 30% の場合

課税口座での受取額 117 万 8110 円
(130 万円 - 70 万円) × 79.685% + 70 万円 = 117 万 8110 円

NISA 口座での受取額 122 万 772 円
93 万 9055 円 × 1.3 = 122 万 772 円

② 購入時手数料がかかる場合

93 万 9055 円から購入時手数料が差し引かれるものとします。

1) 購入時手数料 1.10% の場合

NISA 口座で買い付ける株式投信の投資元本は、92 万 8838 円 (=93 万 9055 円 - 購入時手数料 1 万 217 円) になります。購入時手数料がかかっている分だけ、投資元本が小さくなっています。

NISA 口座における受取額が、課税口座における税引き後の受取額を上回る今後の収益率 (x) は、次の計算式で求められます。

$$\begin{aligned} & 92 \text{ 万 } 8838 \text{ 円} \times (1+x) \\ & \geq \{100 \text{ 万円} \times (1+x) - 70 \text{ 万円}\} \\ & \quad \times 0.79685 + 70 \text{ 万円} \\ & \rightarrow x = 7.8\% \end{aligned}$$

この株式投信の今後の収益率が 7.8% になったとすると、NISA 口座での受取額は、92 万 8838 円 × 1.078 = 100 万 1287 円です。

一方、課税口座における時価は、100 万円 × 1.078 = 107 万 8000 円にな

りますが、当初の投資元本 70 万円を超える 37 万 8000 円の利益に対して 20.315% 課税されるので、税負担は 7 万 6790 円、手取りの利益は 30 万 1210 円、当初の投資元本 70 万円と合わせた税引き後の受取額は 100 万 1210 円です。したがって、今後 7.8% 以上の収益率が期待できる場合は NISA 口座に乗り換えたほうが有利になり、これより低い収益率しか期待できない場合は課税口座での保有の継続が有利になります。

ちなみに、この収益率 7.8% は年率ではないので、仮に NISA 口座で 5 年間運用するとした場合、7.8% ÷ 5 年間 = 1.56% となり、年率で 1.6% 程度以上の収益率が期待できる場合は NISA 口座に乗り換えたほうが有利ということになります。

2) 購入時手数料 2.20% の場合

同様に計算すると、今後 16.6% 以上の収益率が期待できる場合は NISA 口座に乗り換えたほうが有利、これより低い収益率しか期待できない場合は課税口座で保有を継続したほうが有利になります。

3) 購入時手数料 3.30% の場合

今後 26.8% 以上の収益率が期待できる場合は NISA 口座に乗り換えたほうが有利、これより低い収益率しか期待できない場合は課税口座で保有を継続したほうが有利になります。

●購入時手数料がかからない金融機関選びが大事

ここまでの説明をまとめると、評価益がある場合で、NISA 口座で同一商品に購入時手数料をかけて乗り換えるときは、所定の収益率以上にならないと、乗り換えるメリットはありません。特に、3.30% といった高い購入時手数料がかかる商品の場合は、ある程度高めの収益率が期待できなければ、NISA 口座に乗り換えるメリットはありません。

株式投信の購入時手数料がかからない金融機関で NISA 口座を開設することも、大切なポイントです。

(クルー 目黒政明)